地域・学校の概要と児童の実態

１　地域の概要

本校の学区は、熊谷市北部（旧妻沼町）の東端に位置し、旧妻沼町大字葛和田・俵瀬・日向・弁財・大野地区である。また、南は熊谷市の中条地区、東は行田市の北河原地区、北は利根川をはさんで群馬県と接している。利根川や学区内を流れる福川、広がる田畑など自然に恵まれている地域である。

産業は、首都圏へ供給する野菜の産地として、ねぎ・ほうれんそう・にんじん等の栽培が盛んである。学区内をほぼ東西に県道羽生妻沼線が通り、特に朝夕は交通量が多い。

葛和田は、江戸時代に利根川の河岸場として栄えた所で、現在も群馬県千代田町赤岩とを結ぶ渡船場がある。毎年夏には、大杉神社の祭礼行事「葛和田のあばれ神輿」が盛大に行われる。また、利根川の河川敷には、グライダーの滑空場があり、毎年３月の第１土曜日に大学生の全国大会が行われている。日本の女医第１号である荻野吟子女史の生誕の地が学区内の俵瀬にある。

２　学校の概要

本校は、明治７年（１８７４）４月７日に葛和田学校として設立される。明治２２年４月に秦村が誕生して葛和田尋常小学校となる。明治４３年５月１日に秦尋常小学校と改称する（開校記念日）。以後、秦尋常高等小学校（大正９年）、秦国民学校（昭和１６年）、秦村立秦小学校（昭和２２年）、妻沼町立秦小学校（昭和３０年）、熊谷市立秦小学校（平成１７年）と校名を変え現在に至る。その間、校舎の増改築、校地の拡張、施設設備の充実が図られてきた。保護者は、本校の卒業生が多く、学校に関する関心と期待は高く、学校教育に対しても協力的である。

平成２２年度は、特別支援学級が設置された。また、平成２４・２５年度に埼玉県教育委員会と熊谷市教育員会の研究委嘱を受け、長井小・秦小・妻沼東中の三校で小中一貫教育推進モデル事業に取り組み研究を進めてきた。そして、平成２７年度に引き続き、本年度も熊谷市教育委員会の委嘱を受け「確かな学力を身に付け、心豊かに生きる児童生徒の育成」を研究主題として、小中一貫教育の研究を推進する。

３　児童の実態

本校の児童は、純朴で、何事にもまじめに取り組むことができる。また、縦割りの活動が定着したことで、高学年になるとリーダーとしての自覚が出てくる。しかし、全員の顔や名前そして性格がある程度分かるため、やりたくても遠慮したり、人任せになってしまったりすることも少なくない。体位はほぼ県平均だが、体力面では、概して良好である。欠席者も少なく、進んで朝マラソンに参加するなど積極的に運動に取組んでいる。平成２１・２２年度には体力向上優良校として表彰された。小規模校でクラス替えがないため、１年生から６年生まで縦割り班を編成し、「縦割り遠足」や「縦割り清掃」「ふれあい活動」を取り入れ、協力的な態度や連帯感の育成、集会活動による自己表現力の育成に努めている。児童数は１１４名。特別支援学級１クラスを含め全学年単学級の７学級である。　（平成２８年５月１日現在）